

## 第 1 回地域の日 意見要旨及び市の考え等

### 5 三隅地域（参加者 12 人）

No.	年代 性別	要望・提案	市の考え等
1	20代 女性	情報をもっと発信してほしい。	市で提供可能な情報について積極的に情報発信を行ってまいります。
2	30代 男性	交通の便が悪く、市街地に遊びに出ても帰るのが大変。	路線バスやデマンドタクシーなどの公共交通機関については、利用しやすい運行となるよう、令和 5 年度に行う地域公共交通計画の再編において見直し等行う予定としています。 また、交通の便が悪い地域へのあいのりタクシーの活用について支援を行ってまいります。
3	30代 男性	観光から地域の魅力を見つけて興味を持ってもらい、発信してもらおうことが移住者を増やすきっかけになるのではないかと。石州和紙（半紙）の PR を支援してほしい。	観光誘客に繋がるよう、浜田の貴重な文化財や地域の伝統産業・伝統芸能を発信（PR）してまいります。
4	30代 男性	高齢者を支える負担を軽減し、若者が安心して子育てをできる環境を整えるような施策も考えていただきたい。	高齢者が自立した生活を送れるよう介護予防や介護サービスの充実に努めています。 また、まちづくり活動の中核は高齢者が担っており、若者が積極的にまちづくりに参画することで高齢者に良い刺激を与え、子育て環境の整備にも繋がると考えます。
5	30代 女性	高校生中学生向けの楽しい行事が少ない。子どもが遊べる場所が少ない。	市内のまちづくりセンターでは、児童生徒の主体的な地域学習や体験活動など地域の方のご支援を受けながら様々な活動（イベント）を実施しています。
6	30代 女性	子どもが遊べる場所が少ない。	未就学児については、市内 4ヶ所に子育て支援センターがあり、さまざまなイベントや親子の交流、遊べる場所の提供を行っています。 また、今後、市所有施設の見直しを行い、必要な遊び場の整備を検討いたします
7	30代 女性	医療環境の格差を是正してほしい。市内では一般不妊治療までで、特定不妊治療はできないので、出来るようになると良いと思う。	特定不妊治療が実施できるのは、国等の基準により都道府県等の長が定めた指定基準に基づき、実施するのに適当と認められ指定を受けた医療機関となります。 現在、特定不妊治療が可能な指定医療機関は市外にあるため、治療される方にとっては大きな負担だとお察しします。現段階では、経済的負担の軽減及び心身的な負担への相談等可能な範囲で寄り添っていきたいと考えております。
8	40代 男性	J R の待ち時間を有効に活用できる場所があると良いと思う。	より魅力的な駅となるよう J R や地域と一緒にできることを検討してまいります。
9	40代 男性	楽しいイベントがあれば良いと思う。	地域の皆さんがイベント等を実施される場合は、補助制度があるのでご相談ください。
10	40代 男性	地域やご近所など人の関わりがあり、温かい地域だと	日頃からの地域やご近所などの方々とのつながりが日々の暮らしでの支え合いやまちづくりの推進に

No.	年代性別	要望・提案	市の考え等
		思う。	つながるものと考えます。 今後も、地域や近所の方と関わりを持っていただきたいと考えております。
11	40代男性	安心して移住できる環境の一つとして情報通信環境の整備をしてほしい。	U I ターン者の増加には、インターネット環境が整備され、気軽に利用できることは大きな利点になると考えますので、支援する方法を検討してまいります。
12	40代男性	石州和紙を使用することに対して補助があると良い。石州和紙のP Rにもなるのではないかと思う。	石州和紙の利用補助について検討していきたいと思います。
13	40代男性	市外の高校に通う場合の通学支援を検討してほしい。	通学費支援については、市内の高校へ進学を応援する目的で実施していますが、今後については、市内の高校にない専攻（学科）の進学についても、通学費支援の拡充を行ってまいります。
14	40代男性	特産の西条柿を行政もしっかりP Rして盛り上げてほしい。	西条柿の振興には、市としても力を入れ応援してまいります。
15	40代男性	子育てや、結婚についての支援が大きなウエイトを占めているが、単身者のU I ターンへの支援を考えると、人口問題へプラスの影響が生まれるのではないか。	単身者に係る移住支援として、東京圏から本市に移住した人に、移住支援金として60万円（移住元や移住先の要件あり。）を支給する取組を行っています。 人口減少が本市の喫緊の課題であると認識しておりますので、市全体で定住施策について考え、取り組んでまいります。
16	40代男性	子育て支援センター「すくすく」とこども美術館とが連携することで、小さな子どもが1つの場所で触れ合うことができることにつながると思う。	こども美術館で製作したおもちゃを利用し「すくすく」の園庭で遊ぶなど両施設を行き来して遊びの流れもできつつあります。今後も子ども達がいろいろな経験ができるようさらに連携していきたいと考えております。
17	40代女性	市外に出たとしてもふるさとの良さを再認識し、帰ってきてもらうために、ふるさと学習のような教育が必要だと思う。	本市では、小中学校で月35時間以上のふるさと教育を実施しています。 また、本市の豊かな自然や海洋資源を活用した海洋教育・自然体験推進事業を公立幼稚園や小学校で実施しています。 各地域においてもまちづくりセンターを核としたふるさと郷育事業が実施されています。 引き続き、本市の未来を担う子どもたちだけでなく、現在お住まいの市民の皆さんも郷土愛着と誇りを持てるよう、ふるさと郷育に力を入れていきます。
18	40代女性	介護関係については人材不足で困っている。介護職に限ったことではないと思うので、業種ごとに行政と協力して、就職してもらえような取組ができれば良い。	介護現場では、働く人に魅力を持ってもらえるような職場の環境づくり等に努めていますが、一方では、生活に直結する待遇の見直しも求められています。市では、処遇の改善に向けて国や県に対して介護報酬の改定を要望しているところです。